

## 【補助事業概要の広報資料】

整理番号 27-1  
補助事業名 平成27年度ニッポンの産業技術50年～今日の技術（ちから）が未来  
（あした）をつくる～の開催補助事業  
補助事業者名 公益財団法人日本科学技術振興財団

### 1 補助事業の概要

#### (1) 事業の目的

日本の産業技術・科学技術への興味関心の向上と拡大とともに、子供たちをはじめ来場者の科学・技術・産業に対する意識を表出できる機会を設けるとともに、それらを未来に向けて生かすため、産業界との意見交換やフィードバック等の交流を創出することを目的としました。

#### (2) 実施内容

##### ①ニッポンの産業技術50年「くらしの技術⇄50年『大・展望展』」の開催

2015年8月8日～8月30日までの23日間、これまでの50年間の産業技術の変遷を社会・文化との関わりの中で振り返ることで、日本の産業技術や社会・文化が、いまどこにいるのか、これからどこに進もうとしているのかを考えるニッポンの産業技術50年「くらしの技術⇄50年『大・展望展』」を開催しました。誕生からおおよそ50年を迎えているさまざまな企業やブランドの姿を導きとするとともに、これからの社会で大切かつ身近な産業技術から抽出した4つのテーマ（「自動車」「食の（保存）技術」「電話の技術・コンピュータ技術」「素材」）を視点に、これまで ⇄ これから を展望しました。

「自動車」展示では、時代を代表する国産名車やエンジンの実機、安全・環境を意識した近未来のクルマや「ぶつからない技術」など先端IT技術を展示しました。「食の（保存）技術」展示では、食べ物の加工と保存の技術、冷凍食品や解凍技術、近未来の植物工場も展示しました。「電話の技術・コンピュータ技術」展示では、電話とコンピュータの実機（国産1号電話機など）を通して進化の歴史を振り返り、一方で近未来の通信技術をハンズオン形式の展示として体験の機会をつくりました。

「素材」展示では、身近な素材プラスチックを通して、生活の変遷に関わる技術の歩みを俯瞰し、環境に優しい未来素材や様々な成形技術や3Dプリンタなどの実機を展示しました。

また、研究者や技術者が登場・指導するステージトークショーやワークショップを連日開催し、科学・技術・産業や未来について考える機会を設けることで、より関心を高め、体験を深められるようにしました。さらに人々の対話と交流をとおして考え、これまで ⇔ これから を展望する機会をつくりました。



電話の技術とコンピュータ技術の展示



素材の展示

## 2 予想される事業実施効果

工業製品の製造・開発に携わる方々が参画した展示やワークショップ等を通して、子供から大人まで、科学・技術・産業、及び「ものづくり」への興味関心を高めることにつながりました。研究者や技術者が登壇し、直接、話を聞くことができ、実物を見られ、体験できるステージトークショーやワークショップを連日開催し、科学・技術・産業や未来について考える機会を設けたことで、さらに興味関心を高め、体験を深められました。また、大人世代が過去の自身の体験や経験を子供世代に伝えることができ、コミュニケーションが生まれ、今と過去をつなぐ架け橋となりました。さらに、現代から未来に向けてどのように進化していくのかを知ることで、来場者に夢や期待を与えることに繋がり、未来を共に考えるきっかけになり、「環境に優しく」「エコを大切に」「安心・安全であること」「限られた資源を有効に」など、未来をどう作るかについて、さまざまな視点で考える機会となりました。

科学技術・産業技術のこれまでの50年を振り返るだけでなく、これからの未来を見据えた展示・ワークショップ展開は、今後の科学技術館の展示・教育活動に反映し、日本の産業、及び「ものづくり」の振興につなげていきます。



### ●特集 暮らしの技術をめぐる半世紀の大冒険! 夏休み特別展「くらしの技術⇄50年」[大・展望展]



「ニッポンの産業技術 50年」をテーマとする科学技術館開館50周年事業のメインイベントとなる夏休みの特別展「くらしの技術⇄50年」[大・展望展] (JKA補助事業) を8月8日(土)から8月30日(日)までの23日間、1階展示・イベントホールを会場に開催しました。この特別展は、60を超える企業・団体のご協力のもと、6万人を超える来場者を迎えて盛況をもって閉幕しました。素晴らしい特別展の受容をレポートします。

●暮らしの技術(暮らしの技術)「暮らしの技術」は、これまで30年間に身を委ねてきた産業技術の発展を、社会・文化の発展の中でどのように進歩してきたのか、その歴史を振り返ることで、日本の産業技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、これからの未来をどうしていくのかを、多くの来場者が感じとることに努めています。暮らしの技術、暮らしの未来、暮らしの歴史、暮らしの文化をテーマとして、展示・イベントを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

●暮らしの未来(暮らしの未来)「暮らしの未来」は、これまで30年間に身を委ねてきた産業技術の発展を、社会・文化の発展の中でどのように進歩してきたのか、その歴史を振り返ることで、日本の産業技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、これからの未来をどうしていくのかを、多くの来場者が感じとることに努めています。暮らしの技術、暮らしの未来、暮らしの歴史、暮らしの文化をテーマとして、展示・イベントを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

●暮らしの歴史(暮らしの歴史)「暮らしの歴史」は、これまで30年間に身を委ねてきた産業技術の発展を、社会・文化の発展の中でどのように進歩してきたのか、その歴史を振り返ることで、日本の産業技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、これからの未来をどうしていくのかを、多くの来場者が感じとることに努めています。暮らしの技術、暮らしの未来、暮らしの歴史、暮らしの文化をテーマとして、展示・イベントを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

●暮らしの文化(暮らしの文化)「暮らしの文化」は、これまで30年間に身を委ねてきた産業技術の発展を、社会・文化の発展の中でどのように進歩してきたのか、その歴史を振り返ることで、日本の産業技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、これからの未来をどうしていくのかを、多くの来場者が感じとることに努めています。暮らしの技術、暮らしの未来、暮らしの歴史、暮らしの文化をテーマとして、展示・イベントを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

### 様々なテーマ展示で、産業技術の歴史と未来を展望

「大・展望展」の展示を、各テーマゾーンごとに振り返ります。

1. 暮らしの技術(暮らしの技術)「暮らしの技術」は、これまで30年間に身を委ねてきた産業技術の発展を、社会・文化の発展の中でどのように進歩してきたのか、その歴史を振り返ることで、日本の産業技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、これからの未来をどうしていくのかを、多くの来場者が感じとることに努めています。暮らしの技術、暮らしの未来、暮らしの歴史、暮らしの文化をテーマとして、展示・イベントを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

2. 暮らしの未来(暮らしの未来)「暮らしの未来」は、これまで30年間に身を委ねてきた産業技術の発展を、社会・文化の発展の中でどのように進歩してきたのか、その歴史を振り返ることで、日本の産業技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、これからの未来をどうしていくのかを、多くの来場者が感じとることに努めています。暮らしの技術、暮らしの未来、暮らしの歴史、暮らしの文化をテーマとして、展示・イベントを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

3. 暮らしの歴史(暮らしの歴史)「暮らしの歴史」は、これまで30年間に身を委ねてきた産業技術の発展を、社会・文化の発展の中でどのように進歩してきたのか、その歴史を振り返ることで、日本の産業技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、これからの未来をどうしていくのかを、多くの来場者が感じとることに努めています。暮らしの技術、暮らしの未来、暮らしの歴史、暮らしの文化をテーマとして、展示・イベントを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

4. 暮らしの文化(暮らしの文化)「暮らしの文化」は、これまで30年間に身を委ねてきた産業技術の発展を、社会・文化の発展の中でどのように進歩してきたのか、その歴史を振り返ることで、日本の産業技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、これからの未来をどうしていくのかを、多くの来場者が感じとることに努めています。暮らしの技術、暮らしの未来、暮らしの歴史、暮らしの文化をテーマとして、展示・イベントを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

### ●JSF Staff's View (バックヤード) 原点に遡って見えてきた科学“Museum”の未来 2カ年プロジェクト「日本の産業技術50年」を再考する一読者補助事業

開館スタッフの視点から、様々な活動を紹介する「JSF Staff's View」。今回は「舞合裏」で活動を紹介する「バックヤード」です。今回のテーマは、2014年度から2015年度までの2年間にわたり担当が展開した読者補助事業「日本の産業技術50年」-今日の技術(あきら)の未来(あきら)をつくるプロジェクト「5055プロジェクト」(科学技術館開館50周年、開館55周年を記念し、「大・展望展」をはじめ様々なイベントを展開したこの長期プロジェクトの意義と成果をプロジェクトリーダーが振り返ります。

●コンセプトは「アラウンド50」  
「5055プロジェクト」の読者補助事業は、公益財団を軸に「50」「55」という数字が持つ歴史・文化・価値に目を向け、その原点に立ち戻り、そこから、私たちの科学技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、その歴史を振り返ることで、日本の産業技術と社会・文化が、いかに進歩してきたのか、これからの未来をどうしていくのかを、多くの来場者が感じとることに努めています。暮らしの技術、暮らしの未来、暮らしの歴史、暮らしの文化をテーマとして、展示・イベントを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

●「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来  
「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来。このプロジェクトを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

●「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来  
「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来。このプロジェクトを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

●「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来  
「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来。このプロジェクトを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

読者補助事業「日本の産業技術50年」を再考する一読者補助事業。このプロジェクトを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

●「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来  
「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来。このプロジェクトを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

●「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来  
「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来。このプロジェクトを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

●「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来  
「舞合裏」の原点に立ち戻って見えてきた科学“Museum”の未来。このプロジェクトを通じて、来場者から産業技術の発展を促しました。

ニッポンの産業技術 50年「くらしの技術⇔50年『大・展望展』」ポスター



ニッポンの産業技術 50年「くらしの技術⇔50年『大・展望展』」チラシ



**これまでの50年。これからの50年。**

【大・展望展】は、日本のモノづくりや産業技術の進歩を巡る大冒険。目の前に広がるのは「クルマ」の技術や、モノ作りにかかせない「材料」の話。はたまた毎日の「食」や、あらゆる分野とつながるコミュニケーション技術が登場しています。新しいモノ/から古いモノまで、これまでの50年、そして、これからの50年を見通す。好奇心と学びのフィールドが広がっています。

**1 冒険のはじまり。**  
冒険50年をむかえた科学技術館と同じく、冒険にわたって歩みを続けてきた。誰かが始めても誰かが止まらず、アツクにアツクス。大・展望へと一緒に歩む仲間を見つけます。

**2 冒険しよう、挑戦しよう。**  
会場中央の「だいてんぼう広場」では、参加体験できるワークショップやアクティビティを開催。ここは学びや学び、さまざまな視点で展示を見てまわると、冒険クエストのスタート地点でもあります。

**3 冒険しよう、体験しよう。**  
会場内には、最先端技術に触れる展示がいくつもあります。「クルマ」は「材料」×「コミュニケーション」といったテーマごとに、体験や実演展示が並びます。

**科学技術館** 東京・北の丸公園 東京都千代田区北の丸公園2-1 <http://www.jst.or.jp/>

交通のご案内  
 交通の要所内  
 丸の内線 丸の内駅 徒歩約5分  
 丸の内線 茗荷谷駅 徒歩約5分  
 丸の内線 茗荷谷駅 徒歩約5分  
 丸の内線 茗荷谷駅 徒歩約5分  
 丸の内線 茗荷谷駅 徒歩約5分

お問い合わせ先：PRダイヤル 050-5541-8600

入場料	大人 720円	中学生 410円	小学生 260円
団体(20名以上)	520円	310円	210円

※団体予約は別途要  
※入場券は当日限り  
※団体予約は別途要

#### 4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人日本科学技術振興財団  
(コウエキザイダンホウジンニホンカガクギジュツシンコウザイダン)

住 所： 〒102-0091  
東京都千代田区北の丸公園2番1号

代 表 者： 代表理事 理事長 榑原定征 (サカキバラ サダユキ)

担 当 部 署： 経営企画・総務室 (ケイエイクカク・ソウムシツ)

担 当 者 名： 主査 大野 力 (オオノ リキ)

電 話 番 号： 03-3212-8584

F A X： 03-3216-1306

E - m a i l： ono@jsf.or.jp

U R L： <http://www2.jsf.or.jp/>